

# あいち木造 ミーティング

設立10周年を迎えた木愛の会では、木や竹を活用した建築の製作・提案、学生コンペや研究会の開催など、木造都市実現に向けた様々な取組を行ってきましたが、今年は、標記のシンポジウムを開催します。

国産木材の有効活用に向けて、法律や支援制度の整備とともに様々な「木造」の取組が実現されるようになってきました。しかしながら未だ、地域の山とエンドユーザーをつなぐ淀みない流れが実現できているとは言えず、木造都市につながる大きなうねりは生じていません。そのような中でも、地域の山とエンドユーザーをつなぐ方法論を獲得し、補助金に依存した、または短期的な「実験」ではなく、「実践」しつつある企業や組織体が出て来ています。

愛知県には、山側からユーザー側まで、地域の木の活用に取り組む多くの団体・企業・自治体が存在しますが、それぞれがそれぞれの思惑で活動し、その成功体験が共有されているとは言えないでしょう。あいち木造ミーティングでは、実践事例の成功理由とそれぞれに抱える課題を情報共有し、産官学民の新しいつながりの中で、木造都市に向けた新たなムーブメントと可能性を見出すことを目指します。

林業、製材所、自治体や大学の関係者、設計事務所、工務店、学生や広く市民の皆様のご参加をお待ちしています。

2016.9.18(Sun)  
13:30-17:00

会場：名古屋大学 ES ホール

参加費：会員・学生無料、一般1000円

話題提供者： 13:40～15:40 (20分×6名)

山側1・製材加工) 杉生 峰野成彦氏

山側2・自治体) 下呂市企画財政課 田谷諭志氏

山町1・建設会社) 阿部建設 阿部一雄氏

山町2・団体) あいちの木で家をつくる会 福井徹也氏

町側1・組織事務所) 石本建築事務所 榎戸正浩氏

町側2・建築家) 佐々木勝敏氏

同時開催： 15:40～16:10 (休憩時間兼)

愛知県産材をつかう木製ストリートファニチャーコンテスト2015 作品見学・投票会 (ES館前広場・3階ピロティ)

ディスカッション： 16:10～17:00

上記登壇者に加え下記

名古屋大学環境学研究科/都市の木質化プロジェクト

古川忠稔氏 (建築木構造)

愛知県林務課 鍋田拓哉氏

全体司会：

名古屋大学工学研究科/木愛の会代表世話人 太幡英亮

参加申込メール：

kiainokai@gmail.com

申込〆切：9月12日

木愛の会世話人(事務局長) 石田富男

〒460-0008 名古屋市中区栄5-1-32 久屋ワ

イエスビル8F (株)都市研究所スペース

本講習会は、下記 CPD 制度の共通認定プログラムです。

建築 CPD 情報提供制度、JIACPD 制度、建築士会 CPD 制度、  
建築設備士関係団体 CPD 制度、APEC アーキテクト、APEC エンジニア

主催：木造都市研究会 **木愛の会**

後援：日本建築家協会東海支部愛知地域会 (JIA 愛知)

後援：愛知県 (予定)

山側1・製材加工) 杉生 峰野成彦氏

### 「スギ・ヒノキ 流通促進への取り組み」

杉生は、新城市4社の製材所が集まりできた会社です。木造の構造材、内外装材、造作材加工から建具や家具の製作までを担い、木材の流通促進に取り組んでいます。「森はとおい未来からのあずかりもの」という言葉を大切に、森からの恵みを皆様にお届けすることをテーマとして、木を積極的に使っていただけるよう努力しています。



山側2・自治体) 下呂市企画財政課 田谷諭志氏

### 「下呂市「森と人の物語」推進プロジェクト」

下呂市では「森と人の物語」推進プロジェクトを立ち上げ、岩屋ダムで繋がる上下流域住民がともに“木”の価値を学び、再発見し、発展させることにより、森林の保全・再生を流域全体で支える循環型社会の構築に取り組んでいます。



山町1・建設会社) 阿部建設 阿部一雄氏

### 「地域の木材循環活動を考える」

阿部建設は今年で創業111年になります。長年に渡り木材を使った建築を手掛け、最近では住宅以外に木造の施設建設も増えてきました。今回は川下で仕事をしている立場から、様々な試み・提案をお伝えしたいと考えています。



山町2・団体) あいちの木で家をつくる会 福井徹也氏

### 「地域材利用のしくみづくり」

「あいちの木で家をつくる会」は、地域で育った木を、家づくりや暮らしに取り入れ、森を活性化させながら健康な住まいづくりを進めています。木取りを含めた部材の標準化や厚板材利用を検討し、古民家調査より学んだ「あいちの家」を提案し、資源やエネルギー消費の少ない循環型社会をめざしています。



町側1・組織事務所) 石本建築事務所 榎戸正浩氏

### 「合理的なコストで実現する「地元の木で建てる公共建築」」

公共施設は地元の材料で建てたい。当然の要望、実現できて当たり前、、、ところが、発注図面の特記仕様書に「地元の木材を採用すること」と記載すると、その当然の希望が高嶺の花と化す。この理不尽な常識を覆す、、、当たり前のことを当たり前を実現した二つの実例を通し、木造をとりまく社会的構図について皆さんと共に考えたいと思います。



町側2・建築家) 佐々木勝敏氏

### 「ちいさな木造」

「都市の木質化」が中心市街地を基点とする規模の大きな木造建築だとすると私たちが設計してきた多くの個人住宅は100平米に満たない小さな木造建築である。ゆえに今後、木と共に暮らす多くの人に向けて木造の多様性を示していきたいと考えている。

